

大規模災害協定に基づく連絡会（大島ブロック）議事録

場所 : 大島支庁 四階大会議室

期日 : 令和5年5月19日（金） 10:00～10:40

参加者 : 大島支庁建設部 瀬戸口淳一 建設部長
増田 貴文 建設課長
吉行 勝哉 技術補佐
加治屋勝行 技術補佐兼道路維持係長
米丸 隆徳 道路建設係長
小牟田誠 河川港湾第一係長
吉永 謙二 技術主幹兼河川港湾第二係長
福元 隆弘 技術主幹兼技術調整係長
村田 智博 技術専門員

大島支庁瀬戸内事務所建設課

綾織 孝文 建設課長

大島支庁喜界事務所建設課

西原 隆昭 建設課長

大島支庁徳之島事務所建設課

久野 聡 建設課長

中俣 昌二 河川港湾係長

大島支庁沖永良部事務所建設課

倉園 久司 建設課長

測量設計業協会

安永 幸信 会長

福留 勝 理事

若松 節雄 監事(代理)

連絡責任者 (正) (株)久永コンサルタント 岩木 鉄平

連絡責任者 (副) (株)建設技術コンサルタンツ 中村 初男

会議資料

大島支庁より

1. 令和5年度の連絡体制（大島支庁）
2. 大島支庁管内の公共土木施設状況
3. 災害協力の支援フロー・協定書写し・実施要領・留意事項・各文書様式

測量設計業協会より

1. 大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定（経緯）
2. 災害支援協力のフロー図
3. 令和5年度の大島ブロック連絡体制（鹿児島県測量設計業協会）

議事録

1.開会挨拶

瀬戸口淳一 大島支庁建設部長 挨拶

安永幸信 測量設計業協会会長 挨拶

2.資料の説明について

2.1 大島支庁資料（大島支庁）

- ・各資料の説明をいただく。
- ・災害支援協力のフロー説明
調査実施にあたっては調査を行う業者と県担当職員でやりとりをすることになる。情報共有、連絡、報告を十分行いながら進めていただきたい。
- ・早急な被害状況把握が求められますが、事故やケガの無いように調査していただきたい。

2.2 協会資料（測量設計業協会）

- ・資料の説明

3.質疑応答

【支庁より】

- ・連絡責任者、副責任者は、各振興局（各ブロック）で異なっているか確認したい。

【測量協会より】

- ・各ブロックで異なる連絡責任者をあてている。
- ・当初の被害状況確認となる協定であることから、今年4月に実施した災害対応の研修会を受講した人を二名ずつ配置している。
- ・大島ブロックは21社、他ブロックでは30数社、受講者は約800名おり、被災状況確認に対応できる。
- ・県下同時に大規模災害が発生すると困るが、対応できる体制と考えている。
- ・調査要請があれば、被災調査に行くように指示することになる。
- ・社によっては、日にちをかけるより、調査日程を短くできるような、班編成で作業する場合もある。
- ・調査箇所は、エリアで指示していただいた方が早く報告できる。被災状況情報の概要を連絡いただき、河川延長等から、参加する社を募り、配置していく。
- ・大規模災害が発生した後は、天候不良の場合が多く、調査可能な日が限られることがあり、報告期限までの作業を行うためには、調査班を増やすことが必要となる。

【支庁より】

- ・災害調査の支援要請は、協会宛となるか。

【測量協会より】

- ・基本的に協会宛先となる。
- ・速く対応していきたいため、臨機応変で要請していただいて構わない。大島の場合、移動手段、宿泊を考える必要があるため、できるだけ早く情報がほしい。

- ・過去の大島地区 災害調査は、要請されたその日の夜、船便で鹿児島を出発した。参加する各社には、宿泊先、レンタカーの確保補償は不明としながらも、参加いただいた事例がある。（その時は、宿泊先、レンタカーは確保できた）

【支庁より】

- ・従来の調査に比べ、UAV 使用により人が行きにくいところも、災害状況を確認しやすくできないか。

【測量協会より】

- ・UAV 使用は、降雨があると飛ばせない。大規模災害が発生した後は、雨が続く場合が多い。
- ・UAV はバッテリー容量による飛行可能時間の制約もある。1 回飛行時間は、往復を考えて範囲を設定する必要がある。
- ・災害延長等を計測するため、結局 技術者が現地まで足を運ぶことになる。

その他

【測量協会より】

- ・机上査定について、現地にカメラを持っていくことも考えられる。査定時に二度手間になることを危惧している。
- ・技術進展により、360° カメラなどの使用により、危険な箇所への立ち入りが不要となり、安全な調査ができる方向となる。

